

「葵祭り」



FRONT RUNNER

Better City
Better Lifeの
フロント・ランナー

日本の祭 を描く

傅益瑤 (画家)

中国画壇の最高峰・傅抱石画伯を（1904-1965）父に持つ画家・傅益瑤。恵まれた芸術的環境の中で幼少より画筆を握り、若くから才能を発揮してきた画家は、1980年に来日し研鑽を重ね、日本画と中国画の融合による独自の画法、画技を創造し続けている。その傅益瑤に日本の祭を描いた作品がある。画家の作品は日本人が忘れていている日本の心を見事に描いているのである。



【春日神社蘭王陵舞】

FRONT RUNNER

日本の祭 を描く

【野沢温泉道祖神祭】



【鎌倉鶴岡八幡宮流鏝馬神事】



知らなかったという。「鳳凰の舞を描いてから、祭には街の文化が、それも生の文化があるんだということを実感したのです。風景は中国と共通するところが多くある。日本を紹介するなら、やはり祭が一番だと思いました。そして日本の祭を描こうと決心したときに二つの信念を持ちました。ひとつは日本の祭には掘り起こすべき価値がたくさんあるということ、ふたつめは、それを無限の可能性を持った墨で表現することに価値があるということです。自分でできるかどうかは別として、やってみる価値はあると思います」

しかし、いざはじめてみると、なかなかうまくいかなかったらしい。それは画家が誠実であるが故の苦悩であった。「たくさん祭を見て、参加してもみましたが、何を表現したらいいのか凄く悩んでしまい、最初の一枚を描くには半年くらいかかってしまいました。墨というのはイメージで描くもの。だから形をとらえるのではなく、完全に自分の心の中で消化しないとダメなんです。そうでないといけないスタイルはできない。独自の表現力は生まれてこないのです。これは写真を見たり、ビデオを見ても解決はしません。自分を祭の中に没入する。つまり、祭を夢中になって楽しんで、そして帰ってから自分のイメージをふくらませて描いていかないとけないんです」

墨絵を描くことを「洋画や日本画は描き直すことができる。でも、墨はそれを許しません。一度筆を下ろしたら、あとはいくら消しても消せないのです。墨は瞬間の芸術であり、それも過程の芸術。一枚の絵を見ても結果ではなく、最初の一筆と最後の一筆が同じ存在なのです。墨に五彩があると言われるけれど、自分の動きと筆の動きによって無限の色が出てくるという意味なのです」と語る傅益瑤。彼女の筆、彼女の精神だからこそ、祭が持つ人間の原初のエネルギーの爆発を描ききることができるのであろう。

日本の祭を描くきっかけを訪ねると、

「ずっと風景だけを描いてきた私が、風景と人物が一体となった日本独特の祭の絵を描くきっかけとなったのは、20年くらい前に立川市の十二景のひとつ、日ノ出町の郷土芸能・鳳凰の舞を描いてからです。中国では画家は山水か人物か、分野を分けていますから、私にとっては大きな挑戦でした」

と語る傅益瑤。でも実は、日本の祭については日本に来るまで

諏訪大社下社御柱祭木落の図
(160×270cm) 墨彩画 1994年





Profile
傅益瑤

1947年、江蘇省南京市に中国近代画壇の巨匠・傅抱石の第五子として生まれる。南京師範大学（中国古典文学専攻）卒業後、高校の国語教師や南京博物院の古典書画の鑑定員として中国絵画史や理論の研究に従事。1980年、中国教育部の派遣により日本へ留学。武蔵野美術大学大学院修士課程で塩出英雄画伯に東京芸術大学で平山郁夫画伯に師事。仏教芸術の真髄を探求するとともに、日本の祝祭文化に深い関心を持ち、全国各地の祭りに足を運び描いた『五彩十二祭』を発表し話題となる。一方社寺の障壁画制作を意欲的に行い横浜市円満寺本堂の障壁画『比叡山延暦寺図』『天台山国清寺図』二面をはじめ、京都大原三千院の襖絵『三千院の四季』等多くの作品に精力的に取り組む、これら「社寺障壁画の一連の作品」を対象に第二回倫雅美術奨励賞を授与。さらに慈覚大師円仁生誕千二百年記念として、比叡山円満寺に「円仁人唐求法巡礼図」（全25図）を奉納、また延暦寺国宝殿に大壁画『仏教東漸図』を制作。遣元禪師750回天遠忌記念には『祖遺傳東図』（全36図）、『禪趣墨蹟行』（全24図）を大本山永平寺に奉納するなど、勇壮華麗な大作を次々と生み出している。また約6年間に及ぶ月日をかけて芭蕉の歩いたほとんどの地を訪れ、2003年5月に完成させた『芭蕉・奥の細道を描く』（全36図）のシリーズは話題を呼んでいる。同年秋には収蔵されている仙台のカメイ記念展示館で全作品が公開された。この間、1995年には、NHK教育・趣味百科「水墨画への招待」の講師として出演。さらに、平成古寺巡礼「相国寺」「土昭美の朝」「夢の美術館（国宝百選）雪舟の旅」など多くの番組に出演し、全国に多くのファンを持っている。日本国内はもちろん、スイス、香港、シンガポール、台湾等で個展を開催し、2000年にはニューヨークのナショナル・アーツ・クラブや国連本部で個展を開催し国際的な画家として注目され、活躍を期待されている。

2004年4月には中国北京の国立中国美術館において中国人民対外友好協会が創立50周年を記念して主催し「傅益瑤画展」が開催された。同時に中国美術館・美術研究会主催により「傅抱石・傅益瑤の絵画について国際討論会」が行われた。7月には銀座松坂屋で「傅益瑤・奥の細道36景展」、10月には酒田市立美術館で「永平寺所蔵傅益瑤墨画作品と寺宝展」を開催。12月には台湾台北・国立国父記念館「傅抱石百年大展」で「父傅抱石の仕女画について」と題し記念講演を行った。2005年には中国景德鎮で染めつけ磁器制作。2006年8月・上海書展で上海辞書出版より『我的東瀛歲月』『我的父親傅抱石』『窯火丹青』『仏教東漸図』（複製）を出版、同時に記念行事の一環として「日中文化交流の歴史と現状」と題するシンポジウムをプロデュースし話題となる。9月には「絵解き業根譚-108の処世訓」（雄山閣）を出版。如水会館において出版記念祝賀会開催。2007年4月、山梨県甲斐市清浄寺に『涅槃図』（180×260）を奉納。11月、中国上海で日中国交正常化35周年・中韓国交15周年「傅益瑤作品展覧会&中韓陶磁名家交流展」（主催：上海市長寧区人民政府・上海市創意産業協会）開催。「水墨画の芸術鑑賞」と題して講演。



『涅槃図』制作のようす



『山水蘭竹』（磁器）

INFORMATION

2008年10月28日（火）～11月2日（日）

傅益瑤絵画展
「千古永遠の詩情画意」開催

会場：東京銀座・大黒屋ギャラリー 6階

（東京都中央区銀座5-7-4）

開場時間：11：00～19：00

※最終日は17：00まで



涅槃図（180×260cm）墨彩画 2007年



『柴門聞犬吠 劉長卿詩意』
68×40cm（墨画）2007年
水墨画家としてもっとも好きなテーマは漢詩と語る傅益瑤。優れた中国の詩詞を持つ偉大な美質をいかに表現するかが水墨画の才能と人格を判断する基準だという。



『比叡山延暦寺図』（障壁画）横浜市西区・円満寺

FRONT RUNNER

日本の祭
を描く